

# きょうだい構成が観衆効果に及ぼす影響

神 彩菜 (愛知教育大学)

## 1. 研究目的

本研究の目的は、参加者自身のきょうだい関係別に、観衆効果が運動パフォーマンスに及ぼす影響を検討することである。

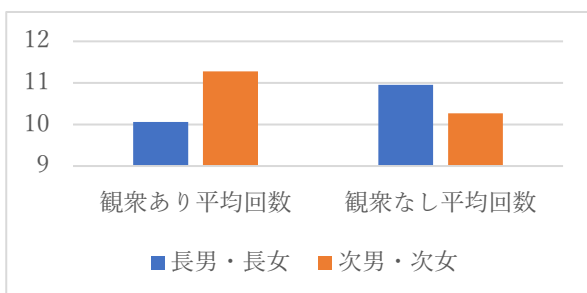
## 2. 研究方法

- 1) 対象者：2人きょうだいである、男子38名・女子39名の計77名
- 2) 調査期間：平成30年11月下旬から12月中旬
- 3) 実験手続き：被験者にお手玉を渡し、2個同時に片手の中に入ることのないように、交互に投げ上げる。連続して10回できるようになってから実験を行った。その後、観衆がいる条件・観衆がいない条件で各条件2回ずつ試行してもらい、2回の平均を記録とする。
- 4) 分析方法：平均回数を従属変数とした、性別(男・女)×きょうだい構成(上・下)×観衆(あり・なし)の2×2×2の3要因分散分析を行い、統計上の有意水準は5%未満とした。

## 3. 結果と考察

主効果は性別( $F=(1, 71) 1.285, p > .05$ )、きょうだい構成( $F=(1, 71) .832, p > .05$ )、観衆( $F=(1, 73) .022, p > .05$ )と有意ではなかった。きょうだい構成×観衆( $F=(1, 73) 4.041, p < .05$ )の交互作用が有意であった。

きょうだい構成と観衆の交互作用が有意だったため、単純主効果の検定を行った。しかし、きょうだい構成別にみた観衆あり・なしの平均回数に有意な差はみられなかった。有意水準には及ばないものの、観衆ありの場合は次男・次女の方が平均回数が多く、観衆なしの場合は長男・長女の方が平均回数が多かった。下図はきょうだい構成別にみた観衆あり・なしの場合の平均回数を示した。



きょうだい構成と観衆の交互作用が有意であり、観衆ありの場合は長男・長女の方が平均回数が多く、観衆なしの場合は次男・次女の方が多かった。濱(2003)は出生順位と性格について、長子の特徴として他人に迷惑をかけないように行動しているとあげている。また、末っ子の特徴として自分の新しい考えを打ち出すことには抵抗があるが、人目などに抵抗があるわけではないので、注目を浴びることには抵抗を感じないとあげている。このことから、長男・長女は知らず知らずのうちに周りのことを考えて行動しているため、観衆がいる場では周りの目を気にして思い通りのパフォーマンスができなかったと考えられる。また、次男・次女は人目を気にせず行動することができ、姉や兄に負けたくないといった負けず嫌いの精神が強く、観衆のいる場でもよりよいパフォーマンスが発揮できたと考えられる。

## 4. 結論

本研究では、性別、きょうだい構成、観衆の有無の3点に着目して、2人きょうだいのきょうだい構成が観衆効果に影響をもたらすかを、片手ジャグリングを用いて検討した。その結果、次の事が明らかになった。

- 1) 男性のほうが女性よりも平均回数が多い。
- 2) 長男・長女のほうが次男・次女に比べて、観衆ありの場合、平均回数が多い。
- 3) 次男・次女のほうが長男・長女に比べて、観衆なしの場合、平均回数が多い。

## 5. 主な参考文献

- 1) Matens, R. and Lander, D.M (1965) Coaction effects on a muscular endurance task Research Quarterly 40:733-737.
- 2) 山本祐希 (1995) 行動者の性差からみた観衆の存在及び観衆の質が運動パフォーマンスに及ぼす影響について、愛知教育大学卒業論文。
- 3) 濱理恵 (2003) 出生順位と性格」ーきょうだい構成は性格形成に影響を与えるのかー、法政大学卒業論文。